

朝鮮における社会主義建設の新時代、金正恩時代の活動作風

モスクワ金日成・金正日主義研究会

マイクル・ピクーリン

朝鮮労働党第8回大会が2021年1月5日から12日まで平壤で行われました。朝鮮民主主義人民共和国における社会主義建設を新たな段階へ引き上げることを見通した大会の決定によって、経済と社会分野で変革が起こるようになるでしょう。

わたしはソ連や他の社会主義諸国の党や政府の指導者が経済発展計画を実現できなかったことを公に認めたことを一度も見たことはありません。

N・S・フルシチョフは産業経営の改革における失敗を最後まで認めませんでした。金正恩総書記は次のように述べています。

「しかし、国家経済発展5カ年戦略の遂行期間は昨年までに終わりましたが、ほとんど全ての部門が掲げた目標をはなはだしく達成できませんでした」

誤りを認めることには強い政治的意志が求められます。現在、朝鮮民主主義人民共和国では反社会主義的現象に反対する強力な闘争、より積極的な党内での批判と活動の欠点にたいする大衆的討議が行われています。これは党活動を改善するための必須の措置です。

さらに活動で発露した欠点にたいするこうした態度は、すべての社会主義者と共産主義者、すべての進歩的諸国にとって当然なものとならなければなりません。

V・I・レーニンは「不快な真実を嘘で覆い隠すのは、無産階級の偉業、勤労する大衆の偉業にもっとも有害で危険である。真実がいかに苦いものであっても真っ向から立ち向かわなければならない。この要求に符合しない政策は破壊的な政策となる」といいました。

党内部の批判を強化し、党内部の規律を強化することは結びついています。党大会で採択された規約の変更事項は、党の統制機関を強化しました。党中央検査委員会の課題は上から統制することです。しかし、大衆の支持を受けなければ、上からの統制はあまり効果的なものとなれません。党大会では道、市、郡の検査委員会を設けることを決定しました。

金正恩総書記は朝鮮労働党第8回大会の報告で党組織と活動家は、いつでもどこにあっても党中央の権威を絶対化し擁護しなければならず、それに反するささいな要素に対しても黙過せず、妥協のない闘争をくり広げなければならないと述べました。

党内での批判、大衆にたいする統制と上部からの統制は、党を強化し、無責任な要素を一掃するのに志向しなければなりません。そうやってこそ党は権柄と官僚主義、不正腐敗行為のような危険な反社会主義的現象に反対して闘うことができるでしょう。

朝鮮労働党の新しい規約は、金日成主席が指導する間に慣例となっていた大会の定

期的召集を復元しました。党内での民主主義と党員の党生活の参加を強めるようになるでしょう。また、党細胞書記及び初級党書記会議は5年に1回ずつ招集されるようになりました。こうした措置は党と大衆の間の連携を強化し、朝鮮労働党の一致性と団結を強化するようになるでしょう。

党規律を強化する闘争によってより早い経済成長を遂げなければなりません。党機関は自分たちの活動で行政代行をなくし、政治的方法で活動しなければなりません。

朝鮮労働党は新たな思想活動方法を適用するでしょう。

金正恩総書記は思想活動で現れた形式主義を批判しました。

総書記は朝鮮労働党第8回大会で行った報告で、発展する現実の要求に即して不合理な党活動システムと方法を改善しなければならないと述べました。

党大会では経済部門におけるもっとも重要な決定が採択されました。

1993年に2番目の7ヵ年計画が終わりました。総会で中央委員会は重要で必須的な計画を実現するために3年間を緩衝期に決めました。しかし、社会主義陣営の崩壊と大部分の対外経済関係の断絶によって、朝鮮民主主義人民共和国の経済は甚大な危機に直面しました。1990年代の「苦難の行軍」以降、朝鮮は経済を十分に復旧し、経済の展望目標を確定することに総力を集中しました。

2016年5月、党第7回大会では国家経済発展5ヵ年戦略を、言い換えれば計画ではなく「戦略」を採択しました。この戦略は党第8回大会で採択された計画の過渡的な構成要素となりました。採択された計画は朝鮮の歴史で二番目となる5ヵ年計画でした。

祖国解放戦争の前に2ヵ年計画が実現し、1954年から1956年まで国家経済復興のための3ヵ年計画が、1957年から1961年まで5ヵ年計画が完遂されました。その後、7ヵ年計画が採択されました。

新たな5ヵ年計画の目標は、経済活動体系と部門間の有機的連携を復旧、整備し、自立的土台を固めるための活動を推し進めて、経済をいかなる外部の影響にも左右されないものとして建設することです。また、金正恩総書記は自力更生が依然として基本種子、テーマとなり、5ヵ年計画期間、遂行すべき課題の一つが輸入依存度を下げることであると述べました。

金正恩総書記は2018年に行われた朝鮮労働党中央委員会第7期第3回総会で国防力の強化と経済建設の並進路線の勝利を宣言し、経済発展に総力を集中することについて強調しました。新たな発展方向を最終的に確定した大会はこれらの決定を反映しました。

金正恩総書記は党中央委員会の報告で、経済活動にたいする国家の統一的指導を実現するための綱紀を確立し、国家的な一元化統計システムを強化し、国家経済の命脈をもり立てるための活動を正しく展開し、工場、企業の経営活動条件を改善しなければならないと述べました。

金正恩総書記は科学技術の発展が労働生産力の拡大をもたらすことにより、科学技

術の発展を経済政策でもっとも重要な要素の一つと見なしています。

唯物史観によれば、より高い労働生産力によって以前の社会経済構造はその後の社会経済構造と異なるようになります。社会主義社会では資本主義社会よりもっと高い労働生産力を創造することができます。社会主義経済の長点は、有用な源泉を可能な限り効果的に利用させる計画化にあります。資源の計画化と中央集権制によって、社会主義社会ではより高い労働生産力が創造されます。計画化はまた、大衆が自力に依拠して生産を自主的に行うようにします。

金正恩総書記が報告で言及した措置は、社会主義偉業を前進させることに目的を置いています。

金正恩総書記は計画経済と党規律を強化し、反社会主義的現象に反対するよう指導しています。社会主義偉業の成敗は党大会の決定貫徹、新たな5ヵ年計画遂行にかかっています。

全世界の共産主義者は労働者階級の頌歌「インターナショナル」が歴史的な党第8回大会で演奏されたことについてたたえました。

金正恩総書記は大会で行った報告で、社会主義諸国との関係を発展させ、革命的党と進歩的党との協力を強化し、世界的範囲で反帝闘争を展開する課題を示しました。

朝鮮民主主義人民共和国における社会主義建設経験は金正恩総書記が党第8回大会で闡明した思想の正当性にたいする最上の確証となります。

わたしは朝鮮労働党第9回大会がこれを実証するだろうと確信します。